

課題番号3

課題名		【重点課題2】農業を新たな仕事にできる機会の拡大 府内唯一の村を再びいちご産地に ～いちごの新規就農者とブランドいちご「ちはや姫」の誕生～
対象： いちご新規就農者		計画期間 H29～R3 事務所名 南河内農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果（達成率）
いちごの新規就農者の育成 地元産いちごのブランド化	① プロジェクトチームの発足と生産者の組織化 ② いちご新規就農者の育成 ③ いちごブランド化・PR活動	① 新規就農者の確保 R3目標：16名⇒実績21名(131%) ② いちご販売額 R2年度目標3350万円⇒実績4800万円(143%)

総合評価（コメント）	
<p>A : 7名 B : 0名</p> <p>■管内いちご産地の復活・再生に向け、関係機関・団体との連携を密にしながら普及活動を実施しており、その取組は高く評価できる。いちごの産地化を通じた地域活性化も期待できるだけに、さらなる活動の強化に努めてほしい。</p> <p>■南河内地域における産地づくりに向けて、重要な普及指導活動である。今後は、地域の人たちや府内消費者との交流・連携が生まれることを期待する。</p> <p>■関係者と連携し、地道な支援をコツコツと積み重ね、着実に結果を出している模範事例である。</p> <p>■新規就農者の人数も重要であるが、継続しないと施策の意味が薄れるため、十分に継続可能な農業の指標として販売金額/10aを上げてほしい。</p> <p>■新規就農者にとっては中心となる作目があるのが良い。</p> <p>■新規就農者の栽培技術の向上はリアルタイム栄養診断で、追肥・かん水の時期・量を改善している。洋菓子店との意見交換による販路開拓、子ども用無添加グミを加工・販売している実需者への原料いちご供給による加工品の開発など、今後も成長が期待できる取組である。</p> <p>■本件は地域の特産品であるいちごの生産を中心に地域の農業振興の一翼を担う取組となっている点は評価できる。施策にあたっては費用対効果の面の検証が不可欠であり、さらなる農業振興のための継続的な取組に期待する。</p>	

評価 A: おおむね適切である。 B: 部分的に検討が必要である。 C: 見直しが必要である。